

高知県

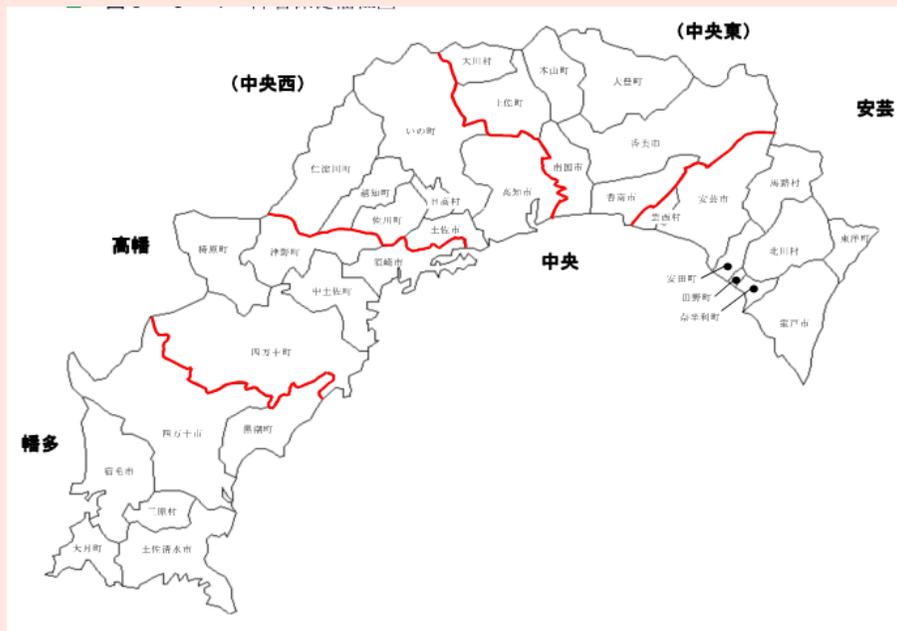
高知県における精神障害にも対応した地域 包括ケアシステムの構築に向けた取組み

高知県では・・・

アウトリーチ推進事業をきっかけに、保健・医療・福祉関係者の顔の見える関係を構築し、精神障害者を地域全体で支える体制作りに取り組みます。

1 自治体の基礎情報

取組内容



取組内容

1. アウトリーチ推進事業の実施
2. 障害者ピアサポート研修事業の実施
3. 地域移行・地域定着支援関係者研修の実施

基本情報（自治体情報）

障害保健福祉圏域数（R4年7月時点）	5	か所
市町村数（R4年7月時点）	34	市町村
人口（R4年6月時点）	667,872	人
精神科病院の数（R3年6月時点）	24	病院
精神科病床数（R3年6月時点）	3,406	床
入院精神障害者数 （R3年6月時点）	合計	2,929 人
	3か月未満（％：構成割合）	605 人 20.7％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	524 人 17.9％
	1年以上（％：構成割合）	1,800 人 61.5％
	うち65歳未満 うち65歳以上	789 人 2,140 人
退院率（H30年時点）	入院後3か月時点	63.8％
	入院後6か月時点	80.3％
	入院後1年時点	87.0％
相談支援事業所数 （R4年7月時点）	基幹相談支援センター数	5 か所
	一般相談支援事業所数	19 か所
	特定相談支援事業所数	95 か所
保健所数（R4年6月時点）	6	か所
（自立支援）協議会の開催頻度（R3年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	1 回／年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R4年3月時点）	都道府県	有・無 1 か所
	障害保健福祉圏域	有・無 0 / 5 か所 / 障害圏域数
	市町村	有・無 25 / 34 か所 / 市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

・高知県では、精神障害の程度にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らすことができるよう、保健・医療・福祉関係者と連携した体制の構築を促進するため、令和4年度は次の3つの事業に取り組みます。

1. アウトリーチ推進事業

精神障害者が住み慣れた街で暮らし続けられるよう、地域生活を支援する体制を整備。また、アウトリーチ推進事業をきっかけに保健・医療・福祉関係者の顔の見える関係を構築し、精神障害者を地域全体で支える体制作りを行う。

2. ピアサポーター養成研修事業

ピアサポーターを養成し、当事者の目線に立った支援が行われる等、精神障害者の地域移行・地域生活における支援体制を充実させる。

3. 地域移行・地域定着支援関係者研修事業

精神障害者の特性に応じた支援が提供できる従事者を養成する。

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

○H16～H23

精神障害者退院促進支援事業(精神障害者地域移行支援特別対策事業の実施)

○H23～H25

精神障害者アウトリーチ推進事業(精神科病院1カ所、地域活動支援センター1カ所)

○H24

地域移行・地域定着支援研修会の実施

○H26～

地域移行・地域生活支援事業(ピアサポーターの養成)

○H27～

圏域での広報・啓発活動

○R1～

地域移行・地域定着支援関係者研修事業

○R3～

精神障害者アウトリーチ推進事業(高幡圏域)

障害者ピアサポート研修事業の実施

○R4～

精神障害者アウトリーチ推進事業の拡大(幡多圏域)

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和3年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R3年度当初)	実績値 (R3年度末)	具体的な成果・効果
①アウトリーチ推進事業(高幡圏域)	5人(アウトリーチ 支援人数)	2人	高幡圏域でアウトリーチ推進事業を実施。支援人数は目標には届かなかったが、圏域の保健・医療・福祉関係者の顔の見える関係が構築でき、圏域で「にも包括」を考えるきっかけとなった。
②障害者ピアサポート研修事業の実施	1回(基礎・専門)	1回(基礎のみ) 26名	障害者ピアサポート研修事業実施要綱に沿った研修会を開催。新型コロナウイルス感染症の影響により、基礎研修のみの開催となったが、26名の参加があった。ピアサポート体制の構築に向けたきっかけとなった。
③地域移行・地域定着支援関係者研修	1回	1回 26名 (23事業所)	精神障害者の特性に応じた支援が提供できる従事者を養成することを目的に研修会を実施。23の事業所から26名の参加があった。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

精神障害者を地域で支える取り組みを実施している市町村がある。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための関係機関の役割が不明確であり、整理できていない。	地域の実情に合わせた支援体制作りを、地域の保健・医療・福祉関係者と検討していく場(協議の場)を作る。	行政	地域の実情に合わせて医療・保健・福祉でも包括を考えるきっかけ作り
		医療	協議の場への参加(事例提供等)
		福祉	協議の場への参加(事例提供等)
		その他関係機関・住民等	協議の場への参加(事例提供等)

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和4年度末)	見込んでいる成果・効果
①圏域の協議の場の設置	0	2	地域の実情に合わせて医療・保健・福祉でも包括を考えるきっかけ作り。
②アウトリーチ推進事業の実績(人数)	2	5	成功事例の蓄積及び他圏域への事業展開。
③ピアサポーターの養成(基礎・専門)	0	30	精神障害者ピアサポート体制の構築の推進。

6

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた
今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
通年	圏域ごとの協議の場の設置	協議の場の設置に向けた関係機関への働き掛け
R4年4月～	アウトリーチ推進事業の実施(高幡・幡多圏域)	高幡圏域、幡多圏域において、多職種(精神科医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等)による訪問支援により、医療・保健・福祉サービスを包括的に提供し、入院という形にとらわれずに住み慣れた地域で暮らし続けられる事を目的にアウトリーチ推進事業を実施。地域の医療・保健・福祉で「にも包括」を考えるきっかけを作る。
R4年6・9月	障害者ピアサポート研修事業の実施	精神障害者ピアサポーター養成のための研修会の実施。 ピアサポーターの活動の場の体制作りを検討
R5年2月	地域移行・地域定着支援関係者研修	精神障害者の特性に応じた支援が提供できる従事者を養成する

高幡圏域

ひきこもりや自殺対策も含め、精神障害者を支える地域づくりの視点をもった協議が圏域単位、市町単位で行われるよう仕組みづくりをしていく

■圏域の「協議の場」の設置

- ・アンケート調査結果のフィードバックと管内市町の取組を共有
- ・担当者会等を活用し、調査結果の共有や「にも包括」構築について意見交換、研修等を実施

■各市町の「協議の場」の設置、運営支援

1 圏域の基礎情報

基本情報



	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
総人口	20,743	6,398	3,365	5,622	16,295
世帯数	10,519	3,416	1,771	2,663	8,290
65歳以上人口	8,387	3,068	1,562	2,519	7,250
高齢化率	40%	48%	46%	45%	44%
精神保健福祉手帳所持者数	222	67	15	23	78
生保受給世帯数	485	71	27	42	203
生保受給率	27.10%	15.00%	10.20%	9.10%	14.90%

出典：2021こうち県の社協—高知県市町村社協の概要—

圏域唯一の精神科病院

- ・218床（閉鎖病棟、保護室あり）
- ・認知症疾患センター
- ・精神科デイケア
- ・精神科訪問看護（NS,PSW,OT）
- ・くらしサポート室（NS,PSW,OT）
- ・医療相談室（PSW）

○アクセス

- ・最寄りのJR駅から徒歩約15分
- ・中土佐町中心部：車で約25分
- 津野町：車で約15分
- 梶原町：車で約1時間
- 四万十町：車で約40分

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
相談支援事業所	1	1	1	1	2
A型作業所	0	0	0	0	1
B型作業所	2	1	1	1	3
グループホーム	1	0	1	0	1
入所施設	0	0	0	0	1
地域活動支援センター	0	1	1	1	1
居宅介護指定事務所	3	1	1	1	2

出典：令和3年度版 困ったときに見てや！（高知県須崎福祉保健所作成資源集）

2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

<令和3年度までの成果・効果>

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R3年度当初)	実績値 (R3年度末)	具体的な成果・効果
①管内市町で協議の場の設置又は相当する会議等の決定	5	4	管内各市町で「にも包括」が認知され、取組の見える化など行われるようになった。
②圏域の協議の場の設置	0	0	協議の場の開催には至らなかったが、圏域の資源や取組を拾い出すため、管内市町に対し取組等を「にも包括」の7つの構成要素に落とし込む形の調査を実施。各市町の現状や課題、強み、弱み等を見える化することができた。
③アウトリーチ推進事業の実績(人数)	5	2	圏域での精神科医療機関や市町、相談支援事業所、県、保健所が精神障害対応の現状や取組について月1回運営会議を通して、共有することができた。

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- ・管内すべての市町において、精神保健福祉に関する取組が行われている
- ・精神障害者だけではなく、発達障害やひきこもり、自殺対策など広くメンタルヘルスの課題に取り組んでいる
- ・個別ケース検討会議、ひきこもり検討会、自殺対策連絡会、自立支援協議会その他各種会議等各市町の現状や課題に合わせて関係者が集まり、検討する体制を整えてきている

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
		行政	圏域の強みや課題の整理をして共有 各市町の協議の場の設置、運営支援
福祉保健所を含め、各取組や検討会等から見えてきた共通する強みや課題を整理する等、地域(圏域)全体を見渡した課題の抽出や取組が十分行えていなかった	ひきこもりや自殺対策を含めた、精神障害者を地域で支えるためには、地域づくりの視点をもった協議が必要 →各市町、圏域で「協議の場」を設置し、現状の確認(取組の見える化)などできるところから取り組んでいく	医療	
		福祉	
		その他関係機関・住民等	
		行政	
		医療	
		福祉	
		その他関係機関・住民等	
		行政	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和4年度末)	見込んでいる成果・効果
圏域の協議の場の設置	0	1	ひきこもりや自殺対策も含め、精神障害者を支える地域づくりの視点をもった協議を圏域単位、市町単位で行う土台づくりができる。
各市町の協議の場の設置	3	5	